

2025年6月25日
オリックス株式会社

第62回定時株主総会 質疑応答要旨

【概要】

開催日時：2025年6月25日（水）10：00～11：50

開催場所：品川プリンスホテル アネックスタワー5F「プリンスホール」

来場株主数：307名（ご参考：昨年419名）

【事前質問に対する主な回答】

< 1 >

質問：トランプ関税、トランプ政権による業績への影響について

回答：当社は貿易依存度が低く、直接的な影響は限定的。関税に加え、安全保障や金融課税、金利・為替政策なども注視し、投融資先に対するモニタリングを継続中。

< 2 >

質問：イスラエルとイランの紛争に伴う、社員の安全確保や業績への影響について

回答：現在、中東地域に子会社はなく、人的・物的被害なし。事業規模も限定的で、業績への影響は軽微。地政学リスク全般について、モニタリングを強化。

< 3 >

質問：2025年3月期に減益となった2セグメントの理由と、今後の施策について

回答：10セグメントのうち3セグメントが減益。環境エネルギーセグメントは、石炭バイオマス混燃発電所2か所の減損が主因。今期は黒字回復を見込む。銀行・クレジットセグメントは、前期にオリックス・クレジットの株式譲渡益を計上した反動。今期は増益を見込む。

< 4 >

質問：再生可能エネルギー事業の長期展望について

回答：再生可能エネルギー事業は企業価値向上に資する事業であるとともに、気候変動対策など社会に貢献する事業であると位置づけ。太陽光、風力、水力、地熱といった電源の多様化を推進。需給調整のための蓄電事業などを含めて、グローバル展開を継続し、カーボンニュートラルの実現に貢献する。

< 5 >

質問：マンション管理事業における親会社の関与について

回答：親会社である当社は、子会社の経営監督に留まらず事業運営、経営管理に実質一体となって関与。大京グループ、穴吹グループのマンション管理事業についても同様。業務品質向上とガバナンス改善を通じたお客様満足度の向上に今後も注力する。

< 6 >

質問：中国の大手不動産会社に対する与信について

回答：前年回答の通り、中国の不動産会社向けの大口与信はない。

< 7 >

質問：オリックス債権回収の株式譲渡について

回答：株式譲渡先は中堅・中小企業向けの貸付債権投資や事業再生支援、豊富な実績を有する企業。その実績とオリックス債権回収の25年にわたる業歴の融合により、今後一層の事業成長が可能と考え、譲渡を決定した。

< 8 >

質問：2015年に発生したオリックス・オーストラリア社の不祥事に起因する「賄賂・マネーロンダリング」について

回答：前年回答の通り、賄賂、マネーロンダリングにあたる事実はない。

< 9 >

質問：京セラドーム大阪の設備の状況について

回答：築28年だが、毎年、適切に設備改修を実施。日本のプロ野球のみならずワールド・ベースボール・クラシックのような国際試合も開催実績があり、球場として一定の評価を得ている。

< 10 >

質問：オリックスの様々な事業と球団保有との関係について

回答：バファローズ球団の高い認知度やブランド力は、当社グループの各事業における重要な経営資源の一つ。スポーツ振興を通じた青少年育成と、インバウンド需要取り込みによる地域経済の活性化の両立を図る。

< 11 >

質問：新日本フィルハーモニー交響楽団に対する支援について

回答：音楽・文化芸術支援の一環として、運営事務局に社員1名を派遣し、過去5年間で

累計 12 百万円の寄付を実施。

<12>

質問：新任取締役候補者の選任理由、兼職数について

回答：柚木氏は大手監査法人で監査業務に長年従事。財務会計・内部統制に精通しており、社外取締役・監査委員として、当社の健全な成長への貢献に期待。

関氏は外資系金融機関の日本責任者を経て、日本初の ESG を重視したファンドのゼネラルパートナーを務めている。ESG 投資では、財務パフォーマンスに加えて、環境問題・社会問題への取り組み状況を評価して選別するため、関氏の ESG 投資の知見が当社の経営監督にも生きる判断。

2025 年 3 月期における社外取締役の取締役会出席率ならびに三委員会への出席率は、いずれも 100%。他社との兼任によって、職務遂行に支障が生じていることは無い。

<13>

質問：現在の役員報酬と退任後の役員の処遇について

回答：当社の役員報酬は、固定報酬、業績連動型報酬（年次賞与）、株式報酬の 3 要素で構成。変動報酬の割合が高く、株主の皆さまを中心としたステークホルダーとの価値共有を重視。有価証券報告書に記載の通り、報酬等の総額が 1 億円以上のものは 7 名、総額 14 億円。退任役員の処遇は、報酬委員会で審議され、取締役会で決定した社内規則に基づき支給。

<14>

質問：当期純利益の使途と最適な資本水準について

回答：当社では当期純利益と ROE を最も重視する経営指標と位置づけている。新規投資案件や非効率な資産の売却進捗を踏まえつつ、国際的信用格付で A 格に相応しい健全性を備える前提で、当期純利益から配当を支払い、資本余剰が生じた場合は自社株買いにより株主還元を実施する方針。

<15>

質問：株主優待の復活について

回答：公平な利益還元の観点から慎重に検討した結果、配当と自社株買いによる株主還元を集約。年間一株当たり配当金は、株主優待の廃止を判断した 2022 年 3 月期の 85.6 円と比べて 2025 年 3 月期は 120.01 円と、+34 円、約 40%増加。株主の皆さまの長期的、持続的な利益を重視し、株主優待の復活は予定していない。

【当日の主な質問に対する応答】

<16>

質問：スペースワン(株)の新株予約権付社債の引受について、宇宙事業への方針について

回答：本件はベンチャーキャピタル投資であり、規模は少額。大きく成長する可能性がある一方で、万が一の場合の損失は限定的。宇宙事業は長い時間軸の領域であり、成長機会を探っていく。

<17>

質問：2035年の当期純利益1兆円の目標について

回答：1兆円は数字の積み上げではなく、チャレンジングな目標として設定。注力セグメントを特定はしていないが、2030年にはMICE-IRが開業するなど事業構成が変化する可能性もある。変化に柔軟に対応し、スピーディーに経営判断を行うことで1兆円を達成したい。

<18>

質問：取締役の社会保険料の会社負担について

回答：法令上、社会保険料は会社と個人で折半して負担する。社内取締役は全て業務執行に従事している。社外取締役は当社の社会保険は適用していない。

<19>

質問：取締役候補者である関氏の選任理由について

回答：指名委員会において、知識、経験、人物を評価して選任。当社の取締役会では活発な議論が行われるため、忌憚のない適切な発言ができることが重要。その観点で関氏は適任である。

<20>

質問：FIT制度（固定価格買取制度）終了後の再生可能エネルギー事業の見通しについて

回答：2030年以降、FIT期間を終了するプロジェクトが出てくるが、オリックス・リニューアブルエナジー・マネジメントによる適切な管理により、FIT終了後も長期間の発電が可能。FIT終了後の電力は、需要家と直接売電契約を締結する選択肢と、卸売市場に売却する選択肢がある。太陽光パネルの価格下落により、FIP制度（Feed-in Premium制度）下でも収益性が成り立つ案件があるため、個別に投資判断して取り組む。

<21>

質問：ロボット事業の見通しについて

回答：オリックス・レンテックにおいてロボットのレンタル事業を手掛けているが、現在

はまだ黎明期。10年後には、AI化も手伝って、倉庫や工場での相当程度の活用が期待される。オリックスはロボットのリースやレンタルを通じてお客様の効率的な事業運営を支援し、収益化を図る。

<22>

質問：カーリース業界におけるオリックス自動車の位置づけについて

回答：オリックス自動車では、カーリース、レンタカー、カーシェアの3事業を展開。カーリース事業は140万台以上の車両を管理し、国内では業界首位。レンタカー事業はインバウンドの恩恵を受けて業績好調。カーシェアは業界最大手に次ぐ位置。オリックス自動車として、過去最高益を4期連続で更新。

<23>

質問：「事業投資・コンセッション」セグメントの市場環境や成長戦略について

回答：プライベート・エクイティ投資事業の領域には非常に多くのプレイヤーが存在し、主な競合先はプライベート・エクイティ・ファンドや、総合商社など。コンセッション事業においては、インフラファンドや、総合不動産会社などが競合先。引き続き、当社ならではのユニークな立ち位置を確保でき、高い収益性が見込める案件に取り組む。

<24>

質問：株価について

回答：現在、PBRは1倍を下回っており、満足できる状態ではない。ROEとPBRには正の相関があるため、ROE向上を重視。よりROEが高い事業に資本を配分し、成長期待の低い事業はダイベストメントしていく。当社は、金融、事業、投資の3つの手法をもって色々な産業にアプローチできるのが強み。コングロマリット・ディスカウントではなく、コングロマリット・プレミアムが反映されるように尽力する。

<25>

質問：高橋社長の経歴について

回答：1993年に当社入社。法人営業、不動産ファイナンス、プライベート・エクイティ投資、大京への出向を経験した。昨年までは環境エネルギーセグメントで、主に再生可能エネルギーの開発・投資を手がけ、うち2年間はロンドンに駐在。

新しい事業を興して利益を上げ、株主の方に利益を配分して喜んでいただけること、が私自身の喜び。これからも、株主の皆さまと喜びを分かち合えるように努力する所存。

<26>

質問：MICE-IR 予定地である夢洲におけるメタンガスや地盤沈下の懸念について

回答：今年4月24日、MICE-IR の建設に着工した。万博会場でメタンガスの発生が報道されたが、MICE-IR 建設エリアでは発生していない。万が一発生した場合でも、ゼネコンとの連携・協議によりしっかり対応する。地盤沈下リスクは想定しており、通常よりかなり深く杭を打ち、開業後の安心・安全を第一に対策する。

以上